

Title	東京歯科大学広報 第316号 2025年03月25日発行
Journal	東京歯科大学広報(316)
URL	http://hdl.handle.net/10130/6781
Right	
Description	

316号

SPRING 2025

東京歯科大学広報



乙巳(きのと・み)

年頭の挨拶

学校法人東京歯科大学
理事長

井出 吉信

皆様、明けましておめでとうございます。

水道橋病院に電子カルテシステムが導入され、本日より運用を開始しました。片倉 朗庶務担当常務理事、山下秀一郎水道橋病院長をはじめ、教職員の多くの皆様が本システム稼働に向け、お正月休み期間も出勤され、ご対応いただいたことに御礼申し上げます。第6学年の学年主任、副主任の先生方も同様に出勤され、グループ学習を行う学生たちをサポートいただいたと聞いております。明日から第6学年は卒業試験が始まり、その先には国家試験が予定されていますので、教務部長をはじめ関係部署の皆様、ひとつよろしく願います。

昨年末に事務職員の課長級以上の管理職会議が開催され、私も出席しました。この会議に参加した管理職は約30名で、そのうち女性管理職は1名でした。10年前の同会議の写真を見返したところ、その当時から女性管理職は2名でした。マスコミ報道によると、日本の大企業における女性管理職の比率は現状3割程度で諸外国に比べて低い水準にあり、それを4割以上にする、また中小企業であっても少なくとも2割以上を目指すということです。本学の女性管理職は最低4、5名いなくてはなりません。

男女共同参画社会は昨今盛んに言われていることですが、本学がこの比率をクリアするには、まさにワーク・ライフ・

バランスの充実が要因になるかと思えます。女性の参画のみならず、育児や介護などにより制限がある方であっても働き続けられる環境整備を行う必要があります、その実現に向けて学校法人として事務職員の働きやすい環境づくりを早急に行う必要があると考えています。

また教員においても、本学に在籍する女子学生の割合は5割を超えており、卒後に教員として大学に残る人数は減少傾向にあります。現状、本学に在籍する講師以上の女性教員の割合は2割に届きませんが、その背景には大学を6年間で卒業し、1年間の臨床研修、大学院を修了すると年齢が29歳になることも少なからず影響があると考えています。今後教員になる、あるいは講師や准教授になると想定した際に、本学の昇任システムにおいて研究活動は重要な要素のひとつとなりますが、それがライフイベントと重なり中断せざるを得ない状況に陥ることもあるかと思えます。その点についても、学校法人として、学長とともに教員の働きやすい職場環境を整備し、最終的には学生のため、患者さんのためとなるような方針を、皆さんと一緒に考えながら進めていきたいと思っています。よろしくご協力をお願いしたいと考えております。

本年もよろしくお祈りいたします。



乙巳（きのと・み）

「乙」は十干の2番目に位置し、「木」の性質を持つことから、草木がしなやかに伸びる様子や横へと広がっていく意味を持ちます。また「巳」は十二支の6番目で、「火」の性質を持ち、神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルともされています。

これらが組み合わさった「乙巳」は、若いエネルギーが発展していく特別な年とされます。また、長く隠されてきたものが露呈したことで、劇的な変化が起きる年ともされています。

年頭の挨拶

東京歯科大学
学長
一戸 達也

皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしく
お願いいたします。

巷ではインフルエンザが大変流行しておりまして、この正
月休みにインフルエンザにかかれた方もいらっしゃると思
います。また新型コロナウイルス感染症も、昨年同時期
と同じペースで増えています。2月がもっとも増えること
と思いますが、まずは体調管理にくれぐれもご注意いた
いで、明るく皆様と一緒に仕事をしていきたいと思
います。

昨年の暮れに報道されたのでお読みになった方もいら
っしゃることと思いますが、日本経済新聞から「歯科医師が
いよいよ減少」という記事が出てきました。いろいろなこと
をこれまでも言われてきましたが、ちょうど昨年の12月25
日に厚生労働省で歯科医師の「歯科医療提供体制等に関する
検討会」の会議があり、歯科医師の需給について議論され
ました。ご承知のように、「歯科医師数が足りない」とい
っても東京や大阪といった大都市ではむしろ余っています。
これからの課題は、地方の、それも歯科医院に通えない
ような人たちに、どのようにして歯科医療を提供するの
かということになります。これを考えますと、東京歯科
大学は水道橋病院と市川総合病院、そして千葉歯科医
療センターといったそれぞれ大変特色のある医療機関
があり、訪問診療にも積極的に取

り組んでいます。そして学生たちは、これらの施設で
研修を積むことができます。これは他の歯科大学や歯
学部と比べて、東京歯科大学の強みであると思
います。この強みを活かしながら、皆様がそれぞ
れの持ち場で、学生教育のために働いていただ
ければと思います。大変だとは思いますが、よろ
しくお願いします。

さきほど井出吉信理事長からお話がありましたが、今日
から水道橋病院の電子カルテシステムの運用が始ま
ります。山下秀一郎水道橋病院長以下、患者さん
のご迷惑にならないよう万全の準備をしていただ
きましたけれども、皆様も各持ち場でよろしく
お願いしたいと思
います。

大学としては、年が明けると、まず早速、明日、明後
日に総合学力試験が行われ、その後、卒業判定、
国家試験、それから入学試験、各学年の定期試験
などが行われます。4月の入学式までずっと行
事が続きますので大変だと思
いますが、皆様各持ち場で、それぞれご努力
いただき、一丸となつて「よりよい東京歯科
大学」を目指していきたいと思
いますので、ぜひご協力をお願いいた
します。

まずは、くれぐれも健康にご留意いた
いで、この1年、健やかに元気に過
ごしていただければと思
います。今年もよろしく
お願いいた
します。



▲年頭の挨拶をする井出理事長



▲年頭の挨拶をする一戸学長

年頭の挨拶

東京歯科大学
事務局長

田口 円裕

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

昨年の年始めは、1月1日に能登半島で地震、1月2日に羽田空港で地上衝突事故が発生し、非常に慌ただしい年明けでありましたが、本年は大きな災害や事故もなく、平穏な年明けになったのではないかと思います。とはいえ、先ほど理事長、学長からお話がありましたように、水道橋病院では医療系システムの移行、また、大学では学生に対する指導などで、年末年始を問わず多くの教職員の方々にご出勤いただきました。改めて感謝を申し上げたいと思います。

昨年も少しお話をさせていただきましたが、本年も水道橋校舎においては、様々な課題があると考えてございます。法人では、私立学校法の改正に伴う、様々な規程の改正や内部統制システムの整備とそれに伴う規程の制定など、法人の体制整備が非常に重要になってくるように思いますし、将来に向けた法人機能の充実も非常に重要な課題であると考えています。大学におきましては、さきほど学長よりお話がありましたけれども、国家試験あるいは入学試験、それから年度を変えますと大学基準協会における分野別の評価がございますので、それに対する準備というものも非常に重要になっていくと考えています。

さらに、現在は様々な分野でDX化の推進が図られており

ますが、教育分野におけるDXの推進も今後非常に大きな課題になると考えています。我が東京歯科大学においても、これから先の教育分野におけるDX化をどういう形で進めていくかということ、今年1年は思考を重ねていく年になるのではないかと考えております。また水道橋病院におきましては、先ほどお話がありましたように新たな医療系システムへの移行と、それに伴う様々な効率化が非常に重要になってくると考えています。

今年は「昭和100年」になります。昭和元年が1925年ですから、1890年創立の東京歯科大学は創立135年ということになります。この135年の間に培われた実績や成果とその評価に基づいて積み重ねられてきた信用と、その信用に基づき将来に期待を込めた信頼というものを、いかにして獲得していくかということが創立140年を目指す東京歯科大学にとっては非常に重要になっていくものと考えています。そういった信用と信頼を獲得していく上では、人材の定着と確保が非常に重要になってきます。教職員の皆様方がこの東京歯科大学を愛し、自分の仕事に誇りを持てるように、私どもの事務方としても働き方改革、あるいは効率化を進めながら、東京歯科大学をよりよいものにしていきたいと考えておりますので、皆様方のご協力とご理解を賜りたいと思っております。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



▲年頭の挨拶をする田口事務局長



▲仕事始めの会の様子

2025年仕事始めの会 開催

2025年1月6日（月）、水道橋校舎、市川総合病院、千葉歯科医療センターにおいて、2025年仕事始めの会が開催された。

水道橋校舎では、午前9時より、血脇記念ホールにて開催された。田口 睦大学庶務課長の司会のもと、井出吉信理事長、一戸達也学長、田口円裕事務局長から年始のご挨拶をいただき、新たな気持ちで新年を迎えた。

市川総合病院では、午前11時45分より、市川総合病院

講堂にて開催された。正木史明庶務課長の司会のもと、西田次郎市川総合病院長、松井淳一副学長、菅原聡美副病院長から年頭のご挨拶をいただいた。

千葉歯科医療センターでは、午後5時45分より、千葉歯科医療センター講義室にて開催された。加藤靖明千葉歯科医療センター参与の司会のもと、片倉 朗副学長・千葉歯科医療センター長、加藤参与から年頭のご挨拶をいただいた。



▲年頭のご挨拶をする西田市川総合病院長



▲年頭のご挨拶をする松井副学長



▲年頭のご挨拶をする菅原副病院長



▲年頭のご挨拶をする片倉副学長・千葉歯科医療センター長



◀千葉歯科医療センター仕事始めの会の様子

教授就任のご挨拶



市川総合病院 外科学講座

瀧川 稜

この度、2024年12月1日付で外科学講座教授を拝命いたしました。大変光栄であるとともに、その重責を実感しております。就任にあたり、井出吉信理事長、一戸達也学長、松井淳一副学長、西田次郎市川総合病院長、長谷川博俊外科主任教授、選考委員の先生方には心より御礼を申し上げます。

私は1995年に慶應義塾大学を卒業し、一般・消化器外科に入局し、そのうち5年間の国立がん研究センター中央病院での研修も含め、外科手術、特に肝胆膵外科手術を修練しました。2005年より3年間米国Cornell大学に留学し、肝臓がん制御の基礎研究に携わりました。2014年より本学に講師として赴任し、松井教授、長谷川教授のご指導のもと、肝胆膵領域を中心に教室の前進に積極的に取り組んできました。2020年4月に准教授を拝命し、膵臓がん早期発見の研究や高難度腹腔鏡肝切除などの低侵襲手術に従事してまいりました。今後も、難治性である肝胆膵がんに対し、患者にやさしい医療を推し進めていきたいと思っております。

市川総合病院に勤務して以来、多くの方々に支えられ、ここまで参りました。昨今の医療界を取り巻く環境は厳しく、市川総合病院もその渦中にあります。しかし、大学病院としての高い専門性と地域中核病院としての信頼を大切に、皆様と一緒に東京歯科大学および市川総合病院のますますの発展にむけて、努力を重ねてまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

第44回カリキュラム研修ワークショップ開催

2024年11月9日（土）と10日（日）、水道橋校舎新館第3実習講義室において、第44回カリキュラム研修ワークショップが開催された。本ワークショップは、厚生労働省から示された「歯科医師の臨床研修に係る指導歯科医講習会の開催指針」に則り、歯科医師臨床研修指導歯科医講習会として開催したものである。

今回は、本学の専任教員および全国の歯科医院に勤務する歯科医師の合計21名が受講した。ワークショップは10の

セッションで構成され、講義、3グループに分かれての討議・発表を通じて、歯科医師臨床研修制度の概要、臨床研修の問題点の抽出と対応策の検討、段階的なカリキュラムの計画・立案などを習得し、指導医に必要なカリキュラム開発能力ならびに研修歯科医を養成する指導力の向上を目指した。

最後に、受講者全員に東京歯科大学学長、歯科医療振興財団理事長および厚生労働省医政局長連名の修了証が授与され、2日間の日程を無事終了した。



▲グループ討議の様子



▲発表・討論の様子

2024年度臨時水道橋病院教職員研修会開催

2024年11月14日（木）午後6時より、水道橋校舎本館第1講義室において、2024年度臨時水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、電子カルテ導入に向け、改めて診療録の書き方について講習するため、「保険講習会」と題し、関東信越厚生局東京事務所の笹井義宣指導医療官による講演が行われた。

講演では、まずはじめに診療録の概要、電子カルテの三原則、診療録に関する規定、記載上の留意点について具体例をあげ、算定要件記載が不足で指摘が多い項目、算定要件があ

る加算について説明された。次に、保健医療機関および保険医の遵守すべき法律について、療担規則に基づく保険診療の禁止事項の説明があった。最後に、「ルールに基づいて算定していただきたいため、技術だけでなく、ルールを勉強していただきたい」とまとめられた。

今回の研修会は、電子カルテ導入前に診療録の書き方について再度教職員が正確に認識することにつながる大変有意義な研修会となった。

学校推薦型選抜、帰国子女・留学生特別選抜、編入学試験A、学士等特別選抜A実施

2024年11月23日（土）午前9時より、水道橋校舎本館において、2025年度学校推薦型選抜、帰国子女・留学生特別選抜および編入学試験A、学士等特別選抜Aが実施された。学校推薦型選抜では100名、帰国子女・留学生特別選抜では

13名の志願者が、また編入学試験Aでは15名、学士等特別選抜Aでは9名（併願含む）の志願者があった。

なお、結果については12月3日（火）夕方に郵送にて通知された。

2024年度第8回水道橋病院教職員研修会開催

2024年11月28日（木）午後6時より、オンラインにて、2024年度第8回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、はじめに「AEDと一次救命処置」と題して、歯科麻酔学講座の齊藤菜月助教による講演が行われた。講演では、BLS（Basic Life Support）の実際の流れについて具体例をあげ説明されたほか、水道橋病院内のAEDの場所や使用方法について説明された。

次に「医療用酸素ボンベの取り扱いについて」と題して、

医療ガス安全管理委員会委員長の吉田香織講師による講演が行われた。講演では、酸素ボンベの取扱いについて具体例をあげ、注意点や残量の見方、交換方法、事故防止について説明された。

一次救命処置やAEDの使用方法および医療用酸素ボンベの取扱いについて、教職員が正確に認識することにつながる大変有意義な研修会となった。

水道橋校舎本館防災訓練実施

2024年11月29日（金）午前11時より、水道橋校舎ビル管理会社の三井ビルマネジメント協力のもと、水道橋校舎本館において防災訓練が実施された。当日は、本館5階～11階を対象として、本館6階自動販売機からの出火を想定した実践さながらの消火・避難訓練が行われた。

本館裏駐車スペースへの避難完了後に、三井ビルマネジメントの柳沢弘正氏と神田消防署職員より挨拶をいただいた。その後、煙ハウスを体験し、水消火器による消火訓練が実施され、すべての訓練が無事に終了した。



▲一次消火の様子



▲煙ハウス体験の様子



▲消火訓練の様子



▲三井ビルマネジメントの柳沢氏による挨拶の様子

2024年仕事納めの会開催

2024年12月27日（金）、水道橋校舎、市川総合病院、千葉歯科医療センターにおいて、2024年仕事納めの会が開催された。

水道橋校舎では、午後5時より、血協記念ホールにて開催された。田口 睦大学庶務課長の司会のもと、井出吉信理事長、一戸達也学長から1年を締めくくのご挨拶をいただいた。

市川総合病院では、午後5時より、市川総合病院講堂にて

開催された。正木史明庶務課長の司会のもと、西田次郎市川総合病院長、松井淳一副学長から1年を締めくくのご挨拶があった。

千葉歯科医療センターでは、午後12時15分より、千葉歯科医療センター講義室にて開催された。加藤靖明千葉歯科医療センター参与の司会のもと、片倉 朗副学長・千葉歯科医療センター長から1年を締めくくのご挨拶をいただいた。



▲仕事納めの挨拶をする井出理事長



▲仕事納めの挨拶をする一戸学長



▲仕事納めの挨拶をする西田市川総合病院長



▲仕事納めの挨拶をする松井副学長



▲仕事納めの挨拶をする片倉副学長・千葉歯科医療センター長



▲千葉歯科医療センター仕事納めの会の様子

2024年度第9回水道橋病院教職員研修会開催

2025年1月23日（木）午後6時より、オンラインにて、2024年度第9回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、「医療安全研修—今年度のインシデント報告書の結果と傾向、2024年度医療安全推進週間結果報告、e-RisKnの運用について—」と題して、医療安全管理室長の江橋延江参与による講演が行われた。講演では、2022年度～2024年度のインシデントについての具体例と結果報告、今年度の医療安全管理室の取り組みとして医療安全ガイダンスを運用開始したことなどの報告、医療安全推進週間結果報告、最近あった

ニュースからSNS上でのトラブルについて説明された。最後に、インシデント報告をするにあたりe-RisKnの運用について、その入力方法などについて説明された。

また、山下秀一郎水道橋病院長より1月から電子カルテが運用されたことについて、現状の問題点や今後の対応、システム障害時の対応に関して報告がなされた。

今回の研修会は、医療安全を意識した行動や医管に関する理解が深まり、教職員が正確に認識することにつながる大変有意義な研修会となった。

令和6年度医療安全対策地域連携加算施設間の相互チェック実施

2025年1月29日（水）午後1時25分より、水道橋校舎本館第2会議室において、「令和6年度医療安全対策地域連携加算施設間の相互チェック」を実施した。これは施設基準「医療安全対策加算」で同届出をしている保険医療機関間での評価実施が規定されており、毎年、市川総合病院の担当者を水道橋病院に招き、医療安全・感染予防の観点から評価を受けている。

市川総合病院より福島裕之医療安全管理部長（市川総合病院副院長、小児科部長、教授）を中心とした担当者6名が来院し、水道橋病院からは部門毎の担当部署所属の16名で対応した。石井 哲医事課長の司会のもと、双方の紹介、ス

ケジュール説明の後、院内ラウンドを実施した。院内ラウンドでは、前回実施時の指摘事項を踏まえ、実際の運用状態について現場の担当者間で聞き取り調査が行われた。今回、新たに眼科がラウンド先に加わり、手術室を中心に活発な意見交換が行われた。

続いてチェックリストに基づき、医療安全・感染予防に分かれて、担当者間で質疑応答・関連書類の確認が行われた。

最後に、講評がなされ、概ね良好な結果を得られ終了した。指摘事項については、水道橋病院院内でフィードバックし、次回に向けて改善を進めていく方針である。



▲部門ごとの書類チェックの様子



▲院内ラウンドの様子



◀対面指導の様子

■ 大学院 Elective Study Program 実施

2024年8月23日（金）から9月20日（金）に、US-Japan Forum主催、国内大学連携カリフォルニア・イノベーション研修が開催され、本学大学院より、口腔腫瘍外科学講座大学院1年次の田中詩織先生と生理学講座大学院3年次の倉島竜哉先生の2名が、大学院Elective Study Programとして参加した。

本プログラムは、US-Japan Forumと複数の国内大学による合同海外研修プログラムで、米国シリコンバレー近郊の企業や教育機関にて、海外で活躍する日本人の指導を受けながら2週間の夏季実習を体験した。後半はイノベーション研修に参加し、米国の大学やベンチャー企業などを訪問し、異なる文化や価値観、考え方を学んだ。

■ 1か月の海外研修を終えて

2024年8月23日（金）から9月20日（金）の1か月間、米国カリフォルニア州にあるシリコンバレーでの海外研修に参加させていただきました。この研修は、多くの一流企業、大学が集まるシリコンバレーの地で“innovation（革命）”をテーマに掲げ、あらゆる分野で活躍する人達と交流し、異なる文化や価値観を学ぶことを主旨として開催されています。

私は、自分の専門分野にとどまらず様々な分野で活躍する方々と実際に交流し、自分の視野を広げるとともに、異文化の価値観や知識を身につけ、今後の自分の糧として役立てていきたいと思い、この研修への参加を決意しました。

研修参加者は年齢も専門分野もそれぞれまったく異なっていました。皆将来の夢や目標をしっかりと持ち、努力している人ばかりでした。毎日一緒に生活するなかで、お互いのことについて話したり、時には意見を言い合ったり、英語の勉強法について話し合ったりと、常に私自身、刺激を受けていました。

前半はスタンフォード大学の睡眠研究所で、睡眠研究の世界的権威である西野精治教授のもとで学ばせていただき

口腔腫瘍外科学講座大学院1年次 田中詩織

ました。西野教授は、精神科の医者として大学院卒業後、当時研究が進んでいなかった睡眠学に興味を持たれ、スタンフォード大学の精神科教授、睡眠研究所の所長に就き、渡米からわずか10年弱でナルコレプシーの原因遺伝子の発見に至りました。「当時は数か月で帰国するつもりだったのに、気づいたら20年いたわ。彼は自分が興味のあることについては無我夢中で追求するの」と西野教授の奥様が食事の席で笑顔で私達に話してくださった言葉が印象的で、心に残りました。

後半のカリフォルニア大学バークレー校やサンノゼ州立大学を訪問した際には、様々な国から学びに来ている学生と交流する時間がありました。どの方も自分の専門分野についてや、留学に至った経緯、今後の目標についてまで、目を輝かせてお話してくれました。年齢や国籍にとらわれず、自分の学びたいという強い意志を持ち、それぞれの場で努力している様子が感じられました。

“Where there is a will, there is a way（意志あるところに道は開ける）”

以前から好きな言葉の1つでしたが、今回の研修を通し



▲Us-Japan Forumでの様子



▲スタンフォード大学で西野教授とともに

てこの言葉の意義を強く感じる事ができました。意志さえあれば、そこに道は作られます。困難と思われることで乗り越えられます。

私は卒業4年目にして、口腔がんについて興味を持ち、命を救える歯科医師になりたいと、2024年から大学院へ入学しました。今後も強い意志を持ち続け、臨床や研究に励んでいきたいと強く思いました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった一戸達也学長、齋藤 淳教授、渋川義幸教授らに臨床を不在にするなか快く送り出してくださった講座の先生方に深く感謝申し上げます。

そして、実際にお会いすることが叶わなかったUS-JAPAN FORUM代表の井手裕二先生に、心より感謝とご冥福を申し上げます。

2024年度大学院Elective Study Program研修報告

生理学講座大学院3年次 倉島竜哉

2024年8月27日（火）から9月27日（金）にかけて、2024年度大学院Elective Study Program（グローバルプロ養成プログラム）に参加させていただきました。大変有意義な経験をさせていただきました東京歯科大学大学院およびUS-JAPAN FORUMの関係各位の皆様へ、厚く御礼申し上げます。

本研修は、はじめの2週間にスタンフォード大学Sleep and Circadian Neurobiology研究室への訪問・見学、次の1週間にサンノゼ州立大学・カルフォルニア大学バークレー校・Google・Intelへの訪問・見学、最後の1週間に各自アポイントメントを取り自由行動、という3部構成で行われました。本報告では、特に印象が強かったスタンフォード大学での研修について記載いたします。

スタンフォード大学は睡眠研究のメッカです。研修期間中、スタンフォード大学Sleep and Circadian Neurobiology研究室には教授の西野精治先生、ポスドクの酒井紀彰先生、訪問研究員の山口大輔先生の3名がいらっしゃいました。研究室では、西野先生のご講演の聴講、研究室のミーティングへの参加、自分の研究分野についての発表、実験見学、動物飼育の手伝いをさせていただきました。

ご講演では、西野先生の功績の1つであるナルコレプシー発生メカニズムの解明、睡眠と免疫の関連、睡眠時無呼吸症候群、時計遺伝子とサーカディアンリズムの関連など、様々なテーマの話をお伺いしました。また、私が興味があった歯痛とサーカディアンリズムの関連について質問し、意見を伺いました。普段、議論することのない内容について、各々の専門分野の知識を融合しながらディスカッションする時間はとても楽しかったです。さらに、自分たちの研究分野について発表する機会を設けていただき、私の研究分野である歯痛と歯の石灰化メカニズムについて発表しました。歯痛発生のメカニズムに関心を示していただき、光栄でした。

実験見学では、山口先生に体温と行動量をリアルタイムで計測するデバイスの埋入手術を、酒井先生に脳波を記録するデバイスの埋入方法とデバイスの作製方法を教えていただきました。特に脳波を記録するデバイスの埋入手術は、現在、本学生理学講座で立ち上げている実験系の参考になりました。実験動物施設は、建物全体が睡眠とサーカディアンリズムを研究するための施設として徹底した管理体制が作られていました。施設内は光への曝露に細心の注



▲スタンフォード大学 Sleep Circadian Neurobiology 研究室のある建物



▲田中詩織先生（左）横井大学院生（右）との記念撮影

意を払った構造になっており、通路と飼育部屋は分厚いカーテンで遮られ、飼育部屋の内部は照明として赤いライトを使用することで、光刺激を最小限に抑える設計になっていました。その徹底ぶりから、睡眠研究のメッカとしての歴史と伝統が垣間見えました。また酒井先生には、研究者として海外で生活するための心構え、どのように海外の研究室にアプローチしたのか、研究費と生活費の確保の仕方、今後の進路など、多くの質問に答えていただきました。実際に海外で研究者として活躍している方からの話はなかなか聞けないため、大変貴重で有意義な時間を過ごせました。

本研修では、学術面はもちろんのこと、精神面でも成長したと実感しています。大学院生の横井 駿さんとの出会いが強く印象に残っています。横井さんとは、西野先生の研究室で開催された食事会で知り合いました。横井さんは物理学の修士号を取得後、スタンフォード大学Structural Biology研究室へ留学し、タンパク質の分子動態シミュレーションの研究をしている博士課程の学生です。海外と日本の大学院の違い、どのような奨学金で留学しているのか、大学院修了後の進路について話しました。また、横井さんの研究の見学をさせて欲しいとお願いすると、快諾してくれました。Structural Biology研究室の教授である若槻壮市先生のご厚意もあり、研究室を見学させていただけることになりました。タンパク質の分子動態シミュレーションとタンパク質結晶化の工程を見させていただくことができました。

海外のトップレベルの大学へ行き、自分の強みを生かして成果を出している同世代の大学院生からはよい刺激を受

けましたが、同時に焦りと悔しさも感じました。東京歯科大学大学院の教育目標には、「国際的な視野、優れた研究能力、豊かな学識を有する研究指導者および歯科医学研究に精通した高度な専門職業人を養成する」という一文が含まれます。これを実現し、世界をリードする研究をするためには、スタンフォード大学のような高度な研究を行っている大学とも肩を並べ、時に助け合い、時に競い合わなければいけません。横井さんとの出会いは、自分が大学院修了までにこの目標を達成するために何をすべきかを省みるよい機会でした。胸を張って東京歯科大学大学院を修了するために、この悔しさを忘れないように残りの大学院生活を過ごし、まずは学位論文を完成する所存です。

最後になりますが、本研修の主催者であるUS-JAPAN FORUM代表の井手裕二先生は、本研修期間中にご病気のためご逝去されています。最期までお会いすることは叶いませんでしたが、電話でお話をさせていただくことができました。ご家族の話では、旅立たれる最後まで私たちの研修が成功することを願っていらっしゃるそうです。また、本研修で知り合った方々の全員が「井手さんは本当に人格者だった」と仰っていました。本研修の細かなスケジュール管理、井手先生のご家族からの手厚いサポート、なにより多くの研修先が私たちを快く受け入れてくれたことから、井手先生の素敵なお人柄を想像するに難しくありません。この場をお借りして、井手先生のご冥福をお祈りするとともに、長きにわたりUS-JAPAN FORUMを企画・運営していただいたことに心より感謝申し上げます。

第505回大学院セミナー開催

2024年10月17日(木) 午後6時より、水道橋校舎西棟ラウンジにおいて、第505回大学院セミナーがウェルビーイングプロジェクトとの共催で開催された。今回は、トロント大学元歯学部長で、同大学歯学部・医学部教授のBarry J. Sessle先生をお招きして、「神経科学の研究は、顔面痛の理解、診断、管理にどのような貢献をしてきたのだろうか？(What has neuroscience research contributed to our understanding, diagnosis and management of orofacial pain?)」と題した講演をいただいた。

口腔顔面領域は、多くの急性および慢性疼痛症状の発生部位であり、顎関節症や神経痛、歯痛、頭痛など様々な疼痛が生じる。これら疼痛には、適切な診断と管理が臨床上的重要な課題となる。神経科学、特に口腔顔面神経科学の分野は、過去50年間に多大な発展を遂げ、口腔顔面痛の基礎となるメカニズムや、その診断・管理に関する理解を向上させる多



◀講演されるSessle先生

くの進歩をもたらしてきた。本講演では、特に神経科学的研究から得られた口腔顔面痛発症メカニズムとその進歩について話された。特に、急性あるいは慢性顔面痛の動物モデルやヒト実験モデルを用いた神経科学的研究から得られた進歩について概説され、今後の口腔歯科疾患における疼痛管理についての展望も述べられた。

セミナーには多くの大学院生・学内研究者が参加し、活発な討議もなされ、大変有意義なセミナーとなった。

阿部伸一教授が台北医学大学（TMU）口腔医学院にて Implant Anatomyの講義を実施

2024年12月9日（月）午後1時10分より、台北医学大学（TMU）口腔医学院（台湾台北市）において、解剖学講座の阿部伸一教授が、歯学部第5学年に対し「Implant Anatomy」の講義を行った。本講義は、TMUの客員教授を拜命している阿部教授が、正式なカリキュラム内の講義として2008年から欠かさず行っているものである。今回の講義は、阿部教授が学生に対し、忘れかけていた解剖学

的知識を質問しながら講義を進めるアクティブラーニング形式で行われた。講義後のアンケートでは、「次年度開催される共用試験合格へ向けて基礎知識の復習が必要である」といった回答が寄せられた。

今後も姉妹校協定のもと、台北医学大学とはElective Study Programによる学生交流をはじめ、教員の研究や教育による人的交流を継続的に実施する予定である。



◀ 質問にも明るく元気に回答してくれたTMUの5年生と、阿部教授（前列右から2人目）、TDC Elective Study Program担当者のWEI JEN CHANG教授（前列右から3人目）

茂木 将レジデント 第54回日本口腔インプラント学会学術大会にて 優秀ポスター発表賞受賞

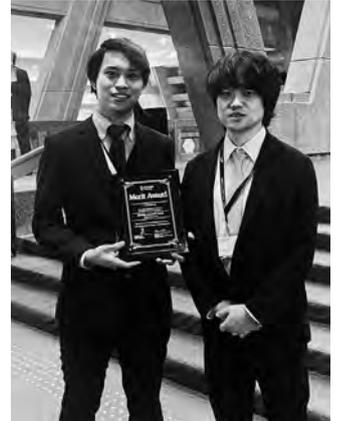
2024年11月1日(金)から3日(日)に、国立京都国際会館(京都市)において開催された第54回日本口腔インプラント学会学術大会にて、口腔インプラント学講座の茂木 将レジデントが優秀ポスター発表賞(協賛:デンツプライシロナ株式会社)を受賞した。受賞演題は「ショートインプラントを含めた長径別におけるインプラント累積残存率について」である。本研究は令和3年度口腔インプラント研究助成金事業から助成を受け、同講座の佐々木穂高教授、平野友基講師を中心に共同で行ったものである。

超高齢社会である我が国においては、インプラント治療を受ける患者の高齢化に伴い、外科的侵襲が大きい骨造成術を回避する手段としてショートインプラントの有用性が注目されている。本研究では、ショートインプラントを含む異なる長径のインプラント累積残存率を調査し、その有用性を報告した。

本研究の結果から、長径6mmのショートインプラントは一部に脱落が認められたものの、90%以上の残存率を示し、その有用性が示唆された。一方で、埋入部位や本数、咬合力、パラファンクションなどの力学的因子が脱落の要因であ



▲受賞した茂木レジデント(左)と佐々木穂高教授



▲受賞した茂木レジデント(左)と平野友基講師

る可能性も示されたことから、これらを十分に考慮した治療計画を立案する必要性も明らかになった。

今後は長期経過後の追跡調査と症例数の積み重ねを行うことで、ショートインプラントの有用性についてさらなる発展が期待される。

稲田潤一郎レジデント 第69回日本口腔外科学会総会・学術大会にて 優秀ポスター発表賞を受賞

2024年11月22日(金)から11月24日(日)に、パシフィコ横浜会議センター(横浜市)において開催された第69回日本口腔外科学会総会・学術大会にて、口腔腫瘍外科学講座の稲田潤一郎レジデントが優秀ポスター発表賞を受賞した。受賞演題は「Anchorage environment is key to unraveling the contradictory relationship of oral Squamous cell carcinoma growth to desmoglein 3」である。これまで稲田レジデントらは、細胞間接着分子であるデスモグレイン3(DSG3)が口腔扁平上皮癌(OSCC)に発現することに着目し、OSCCの同一患者の原発巣と転移リンパ節から樹立した細胞株にDSG3が発現しており、転移リンパ節で高発現していることを示した。DSG3の高発現は腫瘍の進行に関与するという報告がある一方で、腫瘍の抑制に関与するとも報告され、レビュー論文においてその矛盾が指摘されている。今回の研究では、足場環境(培養環境)の違いが、それらの矛盾を解く鍵になると考え実験を行った。その結果、原発巣のような足場のある環境ではDSG3の減少によって腫瘍の成長が促進され、転移リンパ節のような足場のない環境ではDSG3の上昇によって腫瘍の成長が促進することを示した。



▲受賞した稲田レジデント(中央)、指導医の三邊正樹助教(右)、野村武史教授

そして、DSG3をノックダウンすると、それぞれの足場環境で異なる発現変動遺伝子(DEGs)が抽出され、それらのDEGsは高分子の生合成やRNAの代謝プロセスに関与する機能を有していることがわかった。これらの結果は、DSG3は足場環境の違いによって真逆の2つの役割を持つ可能性を示唆しており、矛盾した報告の謎を解く鍵になることが考えられた。

池谷 侑大学院生 第69回日本口腔外科学会総会・学術大会にて口演発表賞を受賞

2024年11月22日（金）から24日（日）に、パシフィコ横浜会議センター（横浜市）において開催された第69回日本口腔外科学会総会・学術大会にて、口腔顎顔面外科学講座の池谷 侑大学院生が口演発表賞を受賞した。受賞演題は「Le Fort I型骨切り術施行患者の口蓋粘膜の経時的な血流動態の評価」である。

Le Fort I型骨切り術は顎変形症治療として広く行われており、近年では件数が増加してきている。術後合併症の1つに顎骨壊死があり、前方部から生じやすいという報告がある。これは口蓋粘膜全体の血流動態に起因していると考えられるが、詳細は不明である。そこで今回、Le Fort I型骨切り術施行患者の周術期における口蓋粘膜の血流を計測し報告した。今後さらなる検討を行い、詳細なパラメータについて解析する予定である。



▲受賞した池谷大学院生（左）と渡邊 章教授

小澤秀彦主任薬剤師、有手雅恵主任臨床検査技師 令和6年度文部科学省医学教育等関係業務功労者表彰を受賞

2024年11月26日（火）に、文部科学省において開催された、国公立大学における医学、歯学に関する教育・研究・患者診療等に長期間従事し、顕著な功労があった者に授与される表彰式にて、本学から推薦した市川総合病院の小澤秀彦主任薬剤師ならびに水道橋病院の有手雅恵主任臨床検査技師の2名が令和6年度文部科学省医学教育等関係業務功労者賞を受賞した。

小澤主任薬剤師は、1988年に市川総合病院に入職後、約36年にわたり病院薬剤師業務に従事し、調剤室、手術室、医薬品情報・薬品管理室などの薬品管理、病棟での服薬指導など様々な薬剤師業務に携わってきた。また、手術室と薬剤部との調整や、周術期患者に対する薬剤管理業務の導入において中心的な役割を担った。さらには、糖尿病療養指導士の

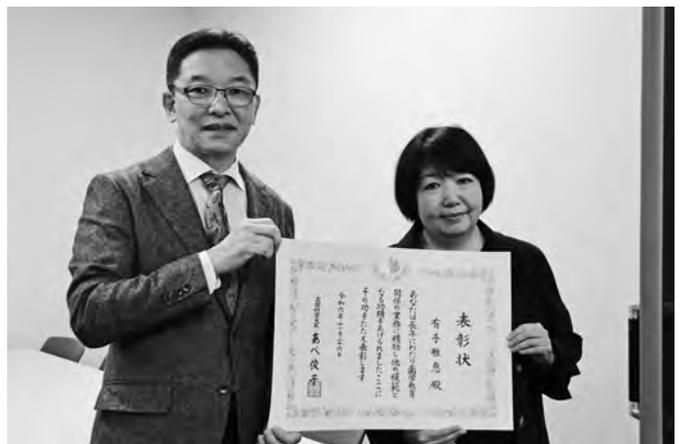
資格を取得し、院内の糖尿病チームに参画し、患者に有効で安全な薬物治療を提供するために取り組むとともに、後輩の指導も行っている。

有手主任臨床検査技師は、1990年に水道橋病院に入職後、約38年にわたり臨床検査技師として病院の運営に貢献してきた。水道橋校舎本館落成後は検査科の立ち上げに貢献し、生化学、血液学の自動分析装置導入や輸血検査立ち上げなどに携わり、すべての手術前検査を検査科で行えるように尽力した。2014年に主任臨床検査技師に任命されてからは、現場責任者として検査の充実を図るとともに、病院内の感染対策や医療安全に積極的に介入し改善に努めている。

それぞれの立場において本学の発展に貢献してきたことが高く評価され、今回の表彰となった。



▲受賞した小澤主任薬剤師



▲受賞した有手主任臨床検査技師（右）と山下秀一郎水道橋病院長

五十嵐章智大学院生 第161回日本歯科保存学会にて 優秀ポスター賞(松風優秀ポスター賞)を受賞

2024年11月21日(木)と22日(金)に、アクリエひめじ(姫路市)において開催された第161回日本歯科保存学会において、保存修復学講座の五十嵐章智大学院生が優秀ポスター賞(松風優秀ポスター賞)を受賞した。受賞演題は「歯髄血管再生療法の治癒過程に出現する毛細血管のサブタイプと新生硬組織形成への寄与」である。

根末完成失活歯に対しては従来、アペキシフィケーションが行われてきたが、歯根が短くなることや根管壁が菲薄になることで歯根破折、抜歯という転機をたどるという欠点があ

った。これらの欠点を克服するため、近年、歯髄血管再生療法が行われようになってきた。しかし、治療後の治癒過程については不明な点が多いこともあり、保存修復講座ではモデルマウスを開発し、治癒過程の詳細を組織学的に検討してきた。今回の発表では治癒過程に出現する血管を免疫組織化学的に調べたもので、特にCD31とendomucinを発現する血管の局在と硬組織形成との関係を検討したもので、本療法の治癒過程の一端を明らかにしたものである。本研究の今後のさらなる解明が期待される。



▲受賞した五十嵐大学院生(中央)と林 美加子保存学会理事長(右)



▲受賞した五十嵐大学院生(右)と村松 敬教授

松永千慧歯科衛生士 第17回日本口腔検査学会学術大会において 最優秀賞(ポスター部門)を受賞

2024年12月14日(土)と15日(日)に、日本大学松戸歯学部(松戸市)において開催された第17回日本口腔検査学会学術大会にて、水道橋病院歯科衛生士部の松永千慧歯科衛生士が最優秀賞(ポスター部門)を受賞した。受賞演題は「歯科衛生士が口腔機能管理を行った口腔機能低下症例の口腔機能の推移」であった。

口腔機能低下症は進行が緩徐で自覚症状に乏しいため、患者が口腔機能への関心を持つことが難しい。本演題では、口腔機能にまったく興味がなく、口腔機能低下の自覚がない高齢患者に対して、歯科衛生士が介入することにより口腔機能を維持向上させた症例に関する報告であった。来院間隔を短く設定し、患者の関心や理解に合わせた無理のない訓練の指導やきめ細やかな口腔機能管理を行ったことで、口腔機能向上や意識の向上につながった経過が報告された。水道橋病院における、歯科衛生士の積極的な口腔機能管理への取り組み、歯科衛生士だからこそできる複数の視点からのアプローチにより、患者の口腔機能の向上に貢献している点が高く評



▲受賞した松永歯科衛生士(中央左)と共同演者の山下秀一郎教授(左)、上田貴之教授(中央右)および電 正大准教授(右)

価された。

歯科医師による診療に加え、歯科衛生士が介入し患者に寄り添ったコミュニケーションを取ることによって、効果的な口腔機能向上をはかるアプローチの浸透が期待される。

■ 2024年度第4回オープンキャンパス・試験入試説明会開催

2024年11月2日（土）午後2時より、水道橋校舎本館短期大学教室において、第4回オープンキャンパス・入試説明会が開催された。当日は、2025年度一般選抜試験および総合型選抜試験（Ⅱ期およびⅢ期）の受験予定者、2026年度以降の入学希望者および専攻科への受験希望者の参加となった。

古澤成博学生部長の進行のもと、鳥山佳則短期大学学長による歯科衛生士の職務・将来性について説明が行われた後、菅野亜紀教務部長より学生生活・本学の特徴について、小林友忠事務部長より学生募集要項についての説明が行われた。次いで2025年度受験者を対象として、古澤学生部長による総合型選抜試験の対策ともなる模擬授業を聴講して例題に解答する形式での模擬入学試験および一般選抜試験に関する説明が行われた。その後希望者は、少人数に分かれて臨床実習の主体となる水道橋病院の診療室、水道橋校舎本館図書館、水道橋校舎西棟短期大学実習室の施設見学を短期大学教

員の引率により行った。見学終了後、希望者には水道橋校舎本館短期大学ラウンジにて個別相談が行われ、講義の内容、学生生活、専攻科などに関するさまざまな質問に教職員および専攻科生、短期大学学生が対応した。

2026年度以降の入学希望者は、短期大学実験室に移動し、入学後の実習などに対して具体的なイメージを持ってもらえるよう模擬基礎実習を見学した。その後、少人数に分かれて水道橋病院および短期大学の施設見学を行い、希望者には水道橋校舎本館短期大学ラウンジにて個別相談が行われた。

また、同日に専攻科受験希望者に対する説明会が水道橋校舎本館短期大学教室において行われた。古澤学生部長の進行のもと、鳥山短期大学学長による挨拶の後、永井由美子学生副部長による専攻科の概要説明が行われ、その後希望者を対象に施設見学および個別相談が行われた。

■ 2024年度修学指導に関する保護者説明会開催

2024年11月16日（土）午前9時より、オンラインにて、2024年度修学指導に関する保護者説明会が開催され、第1学年から第3学年までの計121名の保護者が出席された。

永井由美子学生副部長の司会のもと、全学年の保護者に対して鳥山佳則短期大学学長による挨拶、安松啓子研究部長による卒業研究の実施方針、菅野亜紀教務部長および古澤成博

学生部長による修学指導に関する説明が行われた。その後、学年別に分かれ、学年主任、副主任により学生の修学状況および学生生活に関する指導方針などの説明が行われた。また希望者などを対象とした保護者および学生との三者面談が、学年別にオンラインで実施された。

回想と抱負

2024-2025

會田 尊氏
歯学部 第3学年

2024年は初めて臨床科目に触れ、歯科医師に必要な手技のレベルの高さと、要求される知識の高度さに驚嘆した年であった。一方で、これまでに学んできた基礎科目の種々の知識が線で繋がっていき、自分が一步步ではあるが着実に歯科医師に近付いていることを実感できた年でもあった。

第4学年になると臨床科目がさらに本格化し、試験の数も増加する。また、来たる登院実習に備え、手技技術の向上だけでなく、医療人としての振る舞い方もさらにブラッシュアップしていく必要がある。このように、2025年は勉強も実習もさらにハードな1年になることが予想されるが、1つずつ着実にクリアしていき、理想の歯科医師にさらに近づぐための礎としていきたい。

秋元 望帆
短期大学 第2学年

2024年、第1学年はマネキンで行っていた実習が、第2学年では講義に加え友達同士での相互実習になりました。臨床実習に向けて知識を深めるだけでなく、実習後のフィードバックを通じて技術も少しずつ向上させることができました。前期の科目試験が終わると、すぐに臨床実習が始まり、はじめて患者さんを前にした時はとても緊張しましたが、それぞれが積極的に実習に取り組み、また仲間と協力しながら充実した時間を過ごすことができました。

2025年は今までの経験を活かして引き続き実習に取り組むことはもちろん、国家試験に向けての勉強も始まります。先生方や仲間の支えを受けつつ、合格に向けて励んでいきたいと思います。

石坂 大昂
歯学部 第5学年

2024年、第4学年での総合・CBT・OSCEを突破したのもつかの間、第5学年での病院実習が幕を開けました。宣誓をした登院式が随分と前に感じられるほど病院実習は充実しており、今までの講義での知識と臨床が結びついていく学びの毎日でした。班の皆と協力し合い、笑いあって過ごしたこの1年は今後も思い返すような気がしております。

また、ドイツへのElective Study Programと、中国での技能コンペティションに参加させていただき、初めての海外で刺激を受けながら、自分の将来の視野が大きく広がりました。さらに、夏のデンタルでは後輩たちが男女総合優勝とい

う最高の景色を届けてくれました。

2025年は、国家試験に向け131期の仲間と協力し合い乗り越えていきたいです。

石田 晃裕
老年歯科補綴学講座 助教

2024年は、私が大学院生として東京歯科大学に来させていただいてからちょうど10年目の年でした。慣れない廊下や診療室を遠慮がちに歩いていた穢れのない石田大学院生は、周囲の諸先輩方や後輩、病院のスタッフの方々にも助けられて、いつの間にかふてぶてしく廊下を闊歩するようになりました。

2025年は、私にとって学びなおしと再出発の年にすることと致しました。一生懸命に経験を積んでいると、そのうち、なんだか偉くなったような、できるようになった気になる自分というものが出てきてしまいます。それを自覚し、これまでの経験に奢らず、新しい知見や技術を周囲から謙虚に学ぶ姿勢を、再度心掛けることに致しました。そうすることによって、患者さんやスタッフ、後輩から信頼され、一緒に働きたいと思われる歯科医師を目指します。

伊藤 高志
情報システム管理室 室長

私が仕事で毎日欠かさず行っているルーティンは、皆さんが業務を開始する前に、ネットワークの状況とサーバの状況を確認することです。これは、私がこの仕事の駆け出しの頃に体験した、苦い思い出があるからです。そう、それはあの日、何気なく大学に出勤すると、通用口にはたくさんの人だかりができていました。その原因は、ネットワーク障害が原因による勤怠システム停止によるものでした。その頃の私は、障害を速やかに切り分けてシステムを修復する程の技量がなかったので、ひたすら冷や汗をかきながら復旧作業に努めたのでした。それ以来、少しでも早くシステム障害を発見して、自分1人でも解決できるだけの時間を計算して出勤するようになりました。

また仕事のチーム内では、前日の仕事の報告と本日の予定を報告する朝のミーティングを実施しています。ミーティングでは、課員の困りごとをチーム全員で共有し、それに対してどのように対処するか全員で方向づけを考えます。また、声に出して報告することを大切にしています。なぜなら、どのように話を組み立てれば相手に伝わりやすいかを身につけるための訓練にもなるからです。

これらのことは、私がこの仕事に就いてから約30年以上

も続けている仕事のルーティンですし、これからもこの仕事をしていく上で変わらない毎日の日常です。

植草 朋美

千葉歯科医療センター 歯科衛生士部

2024年は、地震や豪雨などの自然災害に見舞われ、今もなお被災地では多くの方々が避難生活をされています。こうした災害が起こる度に東日本大震災の際、東京歯科大学の一員として災害医療派遣活動を行ったことを思い出し、口腔ケアの大切さを再認識するとともに、歯科衛生士として今ならどのような支援ができるだろうかと考えさせられます。個人的には、年齢を重ねる毎に1年の早さを痛感していますが、昨年はさらに速度を増して過ぎ去って行った年でした。公私ともに日々起こる様々な事柄に対し最善を尽くすことに精一杯で、周りの方々に支えられ務めることができました。

2025年は、患者ファーストの精神で効率的かつ安全で質の高い医療が提供できるよう、柔軟性を高め日々精進していきます。そして、まずは健康第一に笑顔で過ごすことを心掛けたいと思います。

宇治田 理恵

水道橋病院 庶務課

4月から水道橋病院庶務課でお世話になっております。病院業務は初めてのため、庶務課の皆様にご教授いただきながら日々新たな業務に挑戦させていただいております。充分お役に立てているとはお世辞にも言えませんが、おかげさまで何とかもうすぐ1年が経とうとしており、温かく見守ってくださっている周囲の皆様にご心より感謝申し上げます。

昨年より順次導入開始されている勤怠管理システム、今年から導入開始された電子カルテシステムなど、業務改革の節目に直接的または間接的に携わる機会に恵まれ、自分なりに少しでも貢献できるよう精進してまいりますので、ご指導いただけますと幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

内田 浩

産婦人科・リプロダクションセンター 教授

2024年4月に赴任してきて、あっという間に年末を迎えようとしています。赴任前の予想の斜め上をいく出来事が目白押しの1年でした。濃密な1年に翻弄されているためか、赴任してきたのが遠い昔のようにも思えます。全国的な少子化には拍車はかかれども、改善の兆しは見られず、産婦人科はあいもかわらず症例減少にあえぐことになるかと予想されます。

私自身は、ここにきてようやく市川総合病院流が飲み込めてきたような気もしております。産科の症例とともに、ついでに減っていく医師数のなか、仲間同士手を取り合って、

工夫に工夫を重ねて、充実した医療の実践に邁進したいと思っております。雌伏の2025年を将来の飛躍の礎に。

王 睿佳

歯学部 第1学年

入学直後のフレッシュマンセミナーでディベートをし、同級生と交流することで、人とコミュニケーションする重要性を実感しました。これからも様々な人との繋がりを大切に、人間として成長していきたいです。そして、後期の実習でのペア活動の際、最初はうまく連携が取れないこともありましたが、ペアとコミュニケーションを取りながら実験をすることで、良好な関係を築くことができ、実験の成功へとつながりました。このことから、チームワークの魅力を実感できました。また、授業で医療人として相応しい身だしなみを確認し、自らも身だしなみを整えることで、医療人としての自覚を深く認識しました。さらに、病院見学に行ったことで、医療人としてどうあるべきかを見つめ直し、常に邁進することを胸に刻むことができました。これからは自己管理に注意しながら、6年間メリハリのある生活を送るようにしていきます。

2025年は第2学年に進級します。1年を通して学んだ内容を活かして、歯科医師としての自覚を持ちながら、専門知識だけでなく人間性も高めていきたいと考えております。

大久保 真衣

口腔健康科学講座 摂食嚥下リハビリテーション研究室 准教授

転回で展開

2024年は、公私ともに大きな転回の年でした。子どもたちは進学に伴って家を巣立ち、20年近く続いていた生活リズムが一変しました。引越で荷物がなくなり、がらんとした子ども部屋を見ては郷愁に浸ることもありました。しかし、その後すぐに残り物を片付け、自分の荷物やベッドを移動させた結果、部屋は跡形もなく変貌。元自分の部屋を見た息子は「あー」と一言。娘は「らしいね…」と苦笑していました。仕事と家事のダブルヘッダーが日常でした。朝にお弁当用のカツを揚げ、圧力鍋で早炊きご飯を作る。そんな日々が、今では遠い日の花火のように感じられます。何しろ、床に脱ぎ捨てられた服も、食べっぱなしの皿もありません。家に帰れば、100%自分の時間。でも、することが思いつかないので、結局とっとと寝てしまいます。ところが、残念ながら年齢のせい？で連続して眠れません……。

さあ、ここからが展開です！ 2025年こそは、自分の時間を最大限に活用できるようになっていることを願わずにはられません。

大林 亜衣里
大学庶務課

社会人生活2年間を振り返ると、たくさんの温かさに支えられた2年だったと感じます。入職当初は今以上に話す言葉もままならず、「掛金…？」などと頭の中にいつもハテナを浮かべながら、とにかく目の前のことで精一杯だったことを思い出します。報告金額を間違えたり（訂正いたしました）、先方に笑われたりと失敗を繰り返しながらも、転んでは立ち上がる日々でした。だからこそ、皆様の心あるご助力は大きな支えであり救いだったと私は感じます。田口 睦課長・佐々木道子係長をはじめ、陰ながら見守り支えてくださったすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

所属する給与係は、退職・休職など心を痛める書類を多く扱う部署でもあります。皆様と書面上でお会いしないことを願いつつ、皆様のお力になれますよう、これからも尽力してまいります。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

尾崎 和未
短期大学 第1学年

もう間もなく第1学年の生活が終わろうとしています。2024年度の前期では、新しい環境の中で歯科の基礎知識や医療人としての心構えを学びました。後期からは模型での実習が始まり、クラスメイトと協力しながら技術の習得に取り組みました。新しい知識や技術の習得は大変ではありましたが、知識が徐々に蓄積され、学年始めには理解できなかった内容もわかるようになり、技術面でもできることの幅が広がり、学ぶことの楽しさを実感しています。

またスキー部、M.L.S部の2つの部活に所属しており、歯学部学生との交流も得られ、充実した日々を過ごすことができます。

2025年度からは相互実習が始まります。模型での実習とは異なり、人の口腔内での実践となるため、失敗が許されないという不安もあります。しかし、気を引き締め友人と助け合いながら、臨床実習に向けて日々精進していきたいと思います。

加藤 栄助

口腔健康科学講座 障害者歯科・口腔顔面痛研究室 助教

昨年は変化と感謝の年でありました。前年に引き続き132期の学年副主任を務めさせていただいたほか、4月よりスペシアルニーズ歯科・ペインクリニック科および摂食嚥下リハビリテーション科の医局長を拝命し、第29回日本口腔顔面痛学会学術大会の大会準備委員長も務めさせていただきました。自分のキャパシティを超えてしまうことが多々あり、いろいろな方にご迷惑をおかけしてしまいました。自分の力不足を心より痛感させられましたが、周りの皆様のおかげで何とか

乗り越えることができました。本当に感謝しかありません。本年は昨年の経験を活かし、より精進いたします。特に132期が登院実習になりますので、彼らが問題なく終われるよう全力を尽くします。

菊池 有一郎
微生物学講座 講師

本学に勤めて12年、様々な教育・研究業務に携わってききましたが、2024年度に副主任（第2学年）としての業務を初めて拝命いたしました。この経験を通じて、本学の教職員が学生に対して熱心かつ手厚い指導を行っていることを強く実感し、それが本学の優位性であると確信する1年となりました。個人的には、水道橋校舎新館とさいかち坂校舎を頻繁に行き来する日々の中で、健康意識が高まったと感じております。

2025年は、この経験を活かし、「微生物学・免疫学」を苦手とする学生を減らすべく、教育・研究に尽力してまいります。

小林 理紗
水道橋病院 歯科衛生士部

2024年4月より水道橋病院の歯科衛生士長を拝命し、多くのことを学んだ年でした。慣れない立場でのたくさんの仕事を前に右往左往してしまい、あっという間に時間が過ぎて行ったように感じます。サラッと仕事をこなしていた上島文江前歯科衛生士長には改めて尊敬と感謝の気持ちを伝えたいです。また、いつも困ったときに助けてくださる先輩歯科衛生士と、常にサポートしてくれる後輩歯科衛生士にも感謝してもしきれないです。

2025年からの電子カルテ導入に向けた準備は、私にとっても大きな挑戦となりました。今後はシステムを最大限に活用し、より効率的で質の高い歯科医療を提供できるよう、スタッフ一同で研鑽を積んでいきたいと考えております。

佐藤 鈴之助
教務課

2024年4月に入職してから早いものでもうすぐ1年が経とうとしています。新社会人の右も左もわからぬ私がかこまで来れたのも、ひとえに東京歯科大学の皆様が温かく支えてくださったからだと感じております。本当にありがとうございます。

最近、藤田和日郎先生の漫画『からくりサーカス』を読んでいると、人を笑顔にすることについて考えさせられます。学生を笑顔にするために何ができるのか、私が塾講師としてアルバイトをしていた時から常に考えていることではありますが、目の前の学生を今笑顔にすることが、必ずしもその学生の将来の笑顔に繋がるとは限らないのが悩みどころです。

塾講師としては、今はつらく厳しく感じるようなことでも、将来的には彼らの身を助くと信じて指導を行ってきました。今は学生に授業をすることはありませんが、窓口対応や先生方へのサポートを通じて、少しでも多くの学生の笑顔に繋がる仕事をしたいと考えています。

まだまだ至らぬところばかりかと思いますが、精進してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

佐藤 正樹

教養・生物学研究室 准教授

2025年度は、東京歯科大学に籍を移して15年目を迎えます。ポストクとしてのスタートから、現在では准教授という重要な役職をお任せいただけるまで、すべての先生方から頂いたご指導に深く感謝申し上げます。

今年の目標は、「コストパフォーマンスを意識した人生を歩む」ことです。年齢を重ね、教員の勤怠システムも刷新されたことを踏まえ、がむしゃらに突き進むのではなく、周囲を観察しながら、求められている自分の能力を最大限に発揮し、チームワークを通じて問題解決に取り組みたいと考えています。また、もう1つの目標は「脱ワンオペ」、つまり他者に頼る力を身につけることです。これまで築き上げてきたものを少しずつ次世代に引き継ぎながら、現場が常に高いクオリティを維持できるよう、日々努力してまいります。

設楽 沙月

歯科矯正学講座 大学院3年

2024年は私にとって初めての経験が多く、また大きな節目となった1年でした。臨床においては症例をまとめて基本研修課程を終え、大学院生としてはウェルビーイングプロジェクト大学院研究助成に採択していただき、研究も軌道に乗ってきたように感じます。2024年1番のイベントとして、南カルフォルニア大学の矯正歯科学講座との交換留学に参加させていただきました。異国の文化に触れ、熱意ある講師陣、レジデントとの交流の中で、とても実りある時間を過ごすことができました。様々な経験を積み自分の成長を感じるとともに、己の未熟さ・課題も明白となりました。2025年はこれらの課題と向き合いながら、更なる飛躍を胸に精進したいと思います。

菅原 聡美

市川総合病院 看護部

副看護部長として7年間、看護部の教育・人事・総務を担当してまいりましたが、2024年度より、看護部長および患者サービス・療養環境担当の副病院長を拝命いたしました。思えば7年前に当院に赴任した際、職員同士が廊下で気軽に挨拶を交わすアットホームな雰囲気と多職種同士の仲の良さに、一般の大学病院にはない魅力を感じたことを覚えていま

す。その後の新型コロナウイルス感染拡大の中、当院は地域の急性期病院として、中等～重症にわたる患者さんを受け入れました。人手不足の中で、コロナ患者さんを担当する職員も、コロナ以外の患者さんを担当する職員も、非常に苦しい時期もありましたが、持ち前のチームワークを活かしながら職員一丸となって力を合わせ奮闘してきました。そして現在では、急性期病院の経営難の波を何とか乗り越えようと奮闘しています。この予測が難しく変化が激しいVUCAの時代と言われる中、看護部長および副病院長の重責を担うこととなりました。微力ではありますが、職員の皆さんの負担を軽減し、心身ともに健康で生き活きと持てる力を発揮できるよう、そして当院の強みであるあたたかいホスピタリティと質の高い医療を患者さんに届けられるよう、頑張っていきたいと考えております。

塚本 菜奈

歯学部 第4学年

私にとっての2024年は成長の1年でした。Elective Study Programとして行ったスウェーデンでは、歯に関することはもちろん、文化の違いを学び、部活動では主将としてたくさんの壁にぶつかりながらも、仲間と助け合い、乗り越えました。学業面では、講義や実習を通して、基礎と臨床のつながりを学び、来年度の臨床実習に向けた期待が高まるばかりです。2025年は、まず、その臨床実習に参加するための試験を乗り越えなければなりません。公的化して初めての学年ということで、緊張していますが、今までやってきたことを信じて挑みたいと思っています。臨床実習では、これまで学んできたことを最大限生かし、新しい気づきを得られるよう、頑張っていきたいです！

永井 由美子

短期大学 講師

2024年は能登半島地震で始まり心配な年となりましたが、オリンピックでは若者たちが好成績を残してくれたことに、未来を感じられた瞬間でした。

また、歯科衛生士教育に30年以上関わったことを振り返る年ともなりました。対面の学会も増えたことで、いろいろな学会会場で、私たちが育てた歯科衛生士が活躍し、挨拶してくれることや、教え子のお子さんが本学に入学するなど、幸甚の思いで過ごすことができました。

私事では、お陰様で子どもたちの学費納入も終わりを迎え、親としてひと段落する経験ができました。同僚の助けがなくてはあり得なかった経験で、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

2025年は自身を見つめ直し、目標をもって頑張りたいと思っています

原田 百菜
歯学部 第2学年

学士編入の私にとって、東京歯科大学の学生として初めての過ごす1年となった第2学年は、医療人としての使命やあるべき姿を深く認識する1年でした。

専門科目の講義が始まり、歯科医師としての基礎知識の修得に励む充実した日々を過ごすことができました。中でも、解剖学実習は、命の尊さを学ぶとともに、医療従事者になるという責任と覚悟を強く胸に刻む貴重な経験でした。また、講義・実習を通して、学生同士でともに教え合い、学び合う姿勢は、今後学年を重ねるにつれ、また、人として成長するにあたり大切な意識であると感じました。

第3学年では、基礎系科目の知識を基盤に、臨床系科目を学んでいくこととなります。机上での学びの先にある患者さんの存在を常に念頭に置き、引き続き勉学に励んでまいります。

東村 洸孝
歯学部 第1学年

人生の多くを田舎で過ごしてきた私が東京で学生生活を送っているとは、誰が想像できたでしょうか。私は6年間寮生活をしていたので一人暮らしに不安はなかったのですが、人が多い場所が苦手な私は東京という地に恐怖を感じていました。思ったとおりこちらに来たばかりの時は、駅にいる人の数が多すぎて偏頭痛に悩まされ、電車の乗り換えも一苦勞で、とても生きていける気がしませんでした。しかし入学してからは良き友人や先輩方に恵まれ、遊びも部活も充実しており、2024年はあっという間に終わりました。大きな声では言えないのですが、学業面において前期は決して良好とは言えない成績でした。

2025年は後期試験、そして初の総合学力試験が控えています。優秀な友人達と支え合いながらこの試練を乗り越え、今年は自分の目指す歯科医師像に一歩でも近づけるような1年にします。また、第2学年からは実習も増えていくので、今までよりさらに人間関係を大切に、学生生活を過ごしていこうと思います。

増田 理沙
歯学部 第3学年

2024年は、今までより専門的な内容の授業についていくことに必死で、時間の使い方に悩まされた1年でした。また、初めての臨床基礎実習では、聞いたことのない名前の器

具や機械の使い方を覚えることから始まりました。回を重ねるごとに実習の難易度も上がり、その度に歯科医師としての将来を不安に思いながら友人と気づいたことを話した休憩時間は、改めて歯学生だと実感する瞬間でした。

2025年はCBTやOSCEが控えています。試験に合格し、Student Dentistに必要な知識、礼儀、技術を身に着けるためには基礎科目と臨床科目の講義と実習で得た知識の統合に努め、その努力にふさわしい自信を持てるよう精進いたします。

米本 真
歯学部 第2学年

2024年を振り返ると、大学の授業では、基礎科目の履修が始まりました。うまくいかないことも多かった実習や、11月からの中試験ラッシュなど、仲間に支えられ、乗り越えられました。さらには、ヘルニアを患ってしまい、80分の授業が永遠の時間に感じられたのも、今では良い思い出です。

課外活動では、部活動や初めてのアルバイト、インターンを通じて、さまざまな貴重な経験を積むことができています。そして、多くの同級生が20歳という節目を迎えました。おめでとう。この喜ばしい門出を心から祝福するとともに、年男の私も（健康第一で）充実した1年にしたいと考えています。

渡邊 章
口腔顎顔面外科学講座 教授

2024年は辰年で年男でした。十二支の中でも唯一空想の生き物から「変革」や「激動」の年ともいわれています。思い出すと2024年の元旦には、能登半島の地震や羽田空港の航空機事故など衝撃のニュースで始まり、世界では選挙イヤーの年であり、各国で大きな変革の年であったように思います。私自身は、4月から口腔顎顔面外科学講座の講座主任を拝命いたしました。慣れない仕事や仕事量に圧倒され、さらに講座内外では毎週何か起き、良くも悪くも予期せぬことの連続で刺激的な毎日でした。この激動をなかなか上手に乗りこなすことができず、反省です。

さて、2025年かというと巳年で、十二支の中でも唯一脱皮をする蛇のイメージから「再生」と「変化」の年といわれています。私自身、一皮むけ大きく成長し、より良く変化を起し、充実した年になるように努力したいと思います。

令和7年武道始め開催

2025年1月15日（水）、水道橋校舎西棟ラウンジにおいて、新年恒例の「武道始め」および「鏡開き」が、武道系クラブ顧問・部長、関係教職員を迎えて開催された。武道系クラブの柔道部、少林寺拳法部、弓道部、剣道部あわせて約30名の部員が参加した。

笠原正貴学生部長の司会により「武道始め」が開式され、一戸達也学長、杉原直樹弓道部顧問に挨拶をいただき、各クラブが順に演武を披露した。各部の迫力ある演武に、参列した教職員からは大きな拍手が送られた。

続いて、上田貴之学生副部長の司会により「鏡開き」が開式され、片倉 朗副学長に挨拶をいただいた後、各クラブ主将により決意表明が行われた。山本 仁副学長からの乾杯の発声があり、実際に杵と臼を用いて餅つきのパフォーマンスを行った。多くの部員と先生方に力強くついていただいたつきたてのお餅は絶品で、出席者はみな舌鼓を打っていた。昨年にも負けないさらなる活躍に向けて、心身ともに英気を養うことができたことだろう。



▲弓道部による演武



▲剣道部による演武



▲柔道部による演武



▲少林寺拳法部による演武



▲力強くこねるとお餅が柔らかくなる



▲一番人気の味は大根おろし（からみ）

アイススケート部 全日本シンクロナイズドスケーティング選手権大会に出場し好成績を納める

2025年2月8日(土)と9日(日)に、木下カンセーアイスアリーナ(大津市)において開催された第31回全日本シンクロナイズドスケーティング選手権大会に、本学アイススケート部に所属する第4学年の横谷杏林さんと第6学年の武井すみれさんが出場し、横谷さんの所属するJingu Ice Messengersが優勝、武井さんの所属するTeam Brillianceが準優勝した。横谷さんは2025年4月にヘルシンキ(フィンランド)で開催される、ISU世界シンクロナイズドスケーティング選手権大会2025へ出場する。

シンクロナイズドスケーティングはフィギュアスケートの

一種で、氷上におけるシンクロ競技として1チーム16人で演技を構成し、チーム全体の統一感や芸術性、美しい陣形変化を特徴とする。

横谷さんは、定期試験期間中の大会出場という厳しい状況の中で見事1位に輝いた。また武井さんも、歯科医師国家試験のわずか1週間後という過酷なスケジュールの中で素晴らしい演技を披露し、堂々の2位という結果を残した。学業とスポーツの両立を果たしながら、最高のパフォーマンスを発揮した2人の努力は大きな称賛に値するだろう。



▲メダルを手にする武井さん(左)と横谷さん



▲アイススケート部部旗とともに



▲演技中の横谷さん(中央)



▲演技中の武井さん(最後尾)

■ 本学教員著書について



藤関雅嗣・著
パーシャルデンチャーの基本を押さえたIOD・IARPDの臨床
医歯薬出版, 2024

義歯でよく噛めないという状態に、適切にインプラントを応用してIOD・IARPDの欠損補綴を行うことは口腔機能の向上に有効です。本書は3階建てになっていて、「3章のインプラント」の踏み台として「2章のパーシャルデンチャー」があり、その前に「1章の欠損歯列・欠損補綴」がインプラント臨床の土台をガッチリと支えます。豊富な長期経過の症例提示と30のコラムから多彩な臨床ヒントが得られます。ぜひご覧ください。（藤関雅嗣・パーシャルデンチャー補綴学講座）

図書館では本学教員が執筆した著書(本学の教員名が表紙に記載されているものに限る)については、特に収集に努めております。著書発刊の際には、ご一報ください。

■ 教養系教員推薦図書展示

例年、教養系教員より学生に薦める図書を募っている。今年度は3名より4冊の推薦があった。このうち所蔵のないものについては新たに受け入れた上で、さいかち坂校舎図書

室にて展示を行っている。また、推薦文の提出があった図書については、図書館ホームページにて紹介している。

■ 千代田図書館にて本学特設展示開催

2024年11月25日(月)から2025年2月22日(土)までを期間として、千代田図書館(東京都)にて、本学教職員、学生が推薦した図書の展示「東京歯科大学 推しの99冊 歯科大学教職員と歯学部学生さんたちのお薦め本を読破しよう!!」が開催された。開始直後から展示された図書の多くが

区民に貸し出され、大変好評であった。

なお、この特設展示は本学図書館と千代田区立図書館との連携協力の一環として行われたものである。また本件に関する記事が、2024年12月19日(木)朝日新聞朝刊(東京地域総合・18面)に掲載された。



◀特設展示の様子

国内見学者来校

水道橋校舎・水道橋病院

■東京呉竹医療専門学校

対象日：2025年2月19日(水)～21日(金)

10:00～16:00

見学施設：解剖実習室、標本室

見学者：27名(引率者2名程度)

■医療法人鳳生会 藤リハビリテーション学院

対象日：2025年2月5日(水)～7日(金)9:30～16:00

見学施設：解剖実習室

見学者：25名(引率者各日2名)

■学校法人巨樹の会 八千代リハビリテーション学院

対象日：2025年1月29日～31日 10:00～12:30、

13:30～16:00

見学施設：東京歯科大学水道橋キャンパス

見学者：175名

■国際医療福祉専門学校

対象日：① 2025年1月27日 10:00～16:00

② 2025年1月28日 10:00～16:00

見学施設：解剖学実習室

見学者：① 43名(引率6名)、② 46名(引率6名)

■学校法人 医療創生大学 千葉・柏リハビリテーション学院

対象日：① 2025年2月3日

② 2025年2月4日

見学施設：解剖学実習室、標本室

見学者：① 51名(引率7名)、② 51名(引率7名)

市川総合病院

■独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター(医師1名)

対象日：2024年12月9日(月)

見学施設：外来、病棟、第2手術室、角膜センター

見学者：眼科医1名

■国立成育医療研究センター(医師1名)

対象日：2024年12月9日(月)

見学施設：外来、病棟、第2手術室、角膜センター

見学者：眼科医1名

■Harvard Medical School(医師1名)

対象日：2025年2月10日(月)～21日(金)

見学施設：外来、病棟、第2手術室、角膜センター

見学者：眼科医1名

海外出張

水道橋校舎・水道橋病院

■阿部伸一教授(解剖)

台北医学大学歯学部4年生に対するインプラント解剖学の講義のため、12月8日(日)から12月9日(月)まで台湾・台北へ出張。

■四ツ谷 護講師、志邨晃祐大学院生(クラウンブリッジ補綴)

American Equilibration Society および American Prosthodontic Society への参加・発表およびイリノイ大学シカゴ校 Dept of OralBiology との講座間共同研究の打ち合わせのため、2月19日(水)から2月24日(月)までアメリカ合衆国・シカゴへ出張。

2024年12月

	大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎	市川総合病院	千葉歯科医療センター
1	日		
2	月	講座主任教授会(臨時)、短大教授会	サイバーセキュリティ確保事業現地調査(～12/3) 研修管理小部会 医療連携委員会
3	火	水病感染予防対策チーム委員会	緩和ケア委員会 リスクマネージャー部会 ICT部会、保険講習会
4	水	水病薬事委員会	虐待・DV対応委員会 臨床検査運営委員会
5	木		腎臓病教室 感染制御委員会 プログラム委員会 診療録整備指導委員会
6	金	短大水道橋病院臨床実習小委員会	給食運営会議 こどもサポートチーム運営会議
7	土	短大総合型選抜(Ⅱ期)	
8	日		
9	月	短大教授会	
10	火	水病給食委員会	緩和ケア委員会 医局長会
11	水	大学院運営委員会、大学院研究科委員会 水病リスクマネジメント部会	救急委員会、ICU運営委員会
12	木	短大水道橋病院臨床実習指導者委員会	患者サービス向上委員会 手術室運営委員会
13	金	短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会	第2回BLS講習会 保険診療講習会 保険講習会
14	土		
15	日		
16	月		千葉校舎衛生委員会 センター協議会 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会
17	火	水病褥瘡対策委員会、口科研センター会議 臨床教授連絡会、講座主任教授会、人事委員会	緩和ケア委員会
18	水		個別指導<再指導> TDC きゃんサークル 糖尿病チームカンファレンス カルテ監査小委員会
19	木	第8回図書館事務連絡会 水病診療録指導委員会 水病病院運営会議・医局長会・業務連絡会・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会	衛生委員会(メール配信) 説明と同意の質向上委員会
20	金	第180回倫理審査委員会・第121回利益相反委員会	後期健康診断(～12/21) NSTカンファレンス
21	土		
22	日		
23	月	短大教授会	後期健康診断(～12/24) キャンサーボード
24	火	1～4年生前期追・再試験(～12/27)、衛生委員会	クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会
25	水	水病データ管理者会議・診療録管理委員会	診療記録委員会・情報システム委員会 再指導対策プロジェクト会議 保険診療委員会 業務連絡会
26	木	TDCビル協議会	部長会 管理診療委員会 診療材料検討委員会
27	金	仕事納めの挨拶	仕事納めの挨拶
28	土	1～4年生冬期休暇開始(～1/9)	仕事納めの挨拶

29	日	年末年始(～1/4)	
30	月		
31	火		
1/6	月	仕事始めの挨拶、短大水道橋病院臨床実習小委員会	仕事始めの挨拶

2025年1月

		大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎	市川総合病院	千葉歯科医療センター
1	水	年末年始(～1/4)		
2	木			
3	金			
4	土			
5	日			
6	月	仕事始めの挨拶 短大水道橋病院臨床実習小委員会	臨床検査運営委員会(メール配信) 仕事始めの挨拶	仕事始めの挨拶 医療連携委員会
7	火	6年生第4回総合学力試験(～1/8) 水病感染予防対策チーム委員会	感染制御委員会(メール配信) 緩和ケア委員会	リスクマネージャー部会 ICT部会、研修管理小部会
8	水	水病薬事委員会	救急委員会 治験審査委員会・倫理審査委員会・利益相反委員会 CPC	
9	木	1～4年生冬期休暇終了 短大水道橋病院臨床実習指導者委員会	市川保健所立入検査 患者サービス向上委員会 地域連携委員会 手術室運営委員会 プログラム委員会	診療録整備指導委員会
10	金	1～4年生授業再開、口科研センター会議 臨床教授連絡会、講座主任教授会 短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会	こどもサポートチーム運営会議	
11	土			
12	日			
13	月	成人の日		
14	火		緩和ケア委員会	医局長会
15	水	基礎教授連絡会、短大教授会 大学院運営委員会、大学院研究科委員会 水病リスクマネジメント部会	褥瘡対策委員会 診療材料検討委員会 輸血療法委員会 ICU運営委員会	
16	木	水病診療録指導委員会 水病病院運営会議・医局長会・業務連絡会・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会 水病第2回地域医療連携委員会・懇親会	部長会、衛生委員会	
17	金	第181回倫理審査委員会・第122回利益相反委員会 第9回図書館事務連絡会	NSTカンファレンス	
18	土			
19	日			
20	月		第2回総合防災訓練 医療安全管理委員会 薬事委員会	薬事委員会(メール会議)
21	火	1～4年生後期授業終了	緩和ケア委員会	
22	水	1～4年生後期授業(予備日)(～1/23) 第5回図書委員会 水病データ管理者会議・診療録管理委員会	糖尿病教室 診療記録委員会・情報システム委員会 高難度新規医療技術等評価室運営会議 再指導対策プロジェクト会議 糖尿病チームカンファレンス 保険診療委員会 DPC症例検討委員会	

23	木	TDC ビル協議会 水病教職員研修会	脳卒中センター運営会議 説明と同意の質向上委員会 管理診療委員会	
24	金		リスクマネージャー会議 栄養管理委員会 業務改善委員会 給食運営会議	
25	土	4年生臨床実習前共用試験(OSCE)実施前点検(教職員のみ) 短大専攻科入学試験(Ⅱ期)		
26	日	4年生臨床実習前共用試験(OSCE)		
27	月	短大教授会	キャンサーボード 院内がん登録小委員会	千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会
28	火	4年生総合学力試験 短大市川総合病院臨床実習指導者委員会 衛生委員会	クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会 院内迅速対応システム検討委員会 外来運営委員会	
29	水	水病「医療安全地域連携加算施設間の相互チェック」 [市川総合病院間]	カルテ監査小委員会 感染予防対策講演会	業務連絡会
30	木	講座主任教授会(臨時)	バスキュラーボードカンファレンス 内視鏡室委員会	第2回歯科衛生士教育セミナー
31	金			

2025年2月

		大学・短期大学・水道橋病院・さいかち坂校舎	市川総合病院	千葉歯科医療センター
1	土	短大一般選抜		
2	日	一般選抜(Ⅰ期)大学入学共通テスト利用選抜(Ⅰ期)		
3	月	第2、3学年後期定期試験(~2/7) 短大教授会		研修管理小部会 医療連携委員会
4	火	第1学年後期定期試験(~2/13) 水病感染予防対策チーム委員会	緩和ケア委員会	リスクマネージャー部会 ICT部会
5	水	4年生臨床実習前共用試験(CBT) 水病薬事委員会	個人情報管理委員会 救急委員会 臨床検査運営委員会	
6	木	講座主任教授会	プログラム委員会 災害対策委員会	診療録整備指導委員会
7	金	5年生第2回総合学力試験、第4学年後期定期試験(~2/17) 短大水道橋病院臨床実習小委員会	こどもサポートチーム運営会議	
8	土			
9	日			
10	月	5年生共用試験 CSX		医局長会
11	火	建国記念の日		
12	水	創立記念日		
13	木	2年生総合学力試験、短大教授会 短大水道橋病院臨床実習指導者委員会	患者サービス向上委員会 感染制御委員会 手術室運営委員会	
14	金	3年生総合学力試験、第10回図書館事務連絡会 短大千葉歯科医療センター臨床実習指導者委員会	こどもサポート研修会<BEAMS Stage II>	
15	土			
16	日			
17	月	1年生総合学力試験	医療安全管理委員会 市川リレーションシップカンファレンス	
18	火	水病褥瘡対策委員会 水病給食委員会	緩和ケア委員会 2024年度 TDC 市川総合病院 QC 大会	

19	水	臨床教授連絡会 大学院運営委員会 大学院研究科委員会 水病リスクマネジメント部会	TDC きゃんサークル 診療材料検討委員会 ICU 運営委員会	千葉歯科医療センター協議会 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会
20	木	水病令和7年度研修歯科医群内マッチング・オリエンテーション TDC ビル協議会 水病診療録指導委員会 水病病院運営会議・医局長会・業務連絡会・医療安全管理委員会 水病感染予防対策委員会・個人情報保護委員会 水病医療連携報告会	衛生委員会(メール配信) 訪問看護ステーション運営協議会 部長会 メンタルヘルス講演会 説明と同意の質向上委員会	
21	金	第182回倫理審査委員会・第123回利益相反委員会	NST カンファレンス	業務連絡会
22	土			
23	日	天皇誕生日		
24	月	天皇誕生日振替休日		
25	火	短大教授会、口腔科学研究センターワークショップ 衛生委員会	クリニカルパス委員会 緩和ケア委員会	
26	水	1～3年生後期追・再試験(～3/3) 水病データ管理者会議・診療録管理委員会	糖尿病教室 診療記録委員会・情報システム委員会 糖尿病チームカンファレンス	
27	木	4年生臨床実習前共用試験(OSCE)追・再試験 水病教職員研修会	管理診療委員会	臨床研修歯科医教育セミナー
28	金	4年生臨床実習前共用試験(CBT)追・再試験	給食運営会議	

2025 年度 東京歯科大学 学年暦

年 月 日	曜	行 事 予 定
2025 年 4 月 1 日	火	新入生・編入生オリエンテーション
3 日	木	5 年生オリエンテーション
4 日	金	5 年生授業開始
5 日	土	入学式
7 日	月	新入生プレースメントテスト
8 日	火	2・3・4 年生オリエンテーション 新入生健康診断
9 日	水	1～4 年生前期授業開始 5 年生登院式(予定)
23 日	水	} フレッシュマンセミナー(予定)
25 日	金	
28 日	月	
5 月 2 日	金	} 1～4 年生休講日(4/26～5/6 連休)
29 日	木	
6 月 13 日	金	6 年生第 1 回総合学力試験(30 日(金)まで)
6 月 13 日	金	実験動物供養祭(3 年生)(予定)
7 月 19 日	土	1～4 年生夏期休暇 開始(8 月 24 日(日)まで)
8 月 25 日	月	1～4 年生授業再開
28 日	木	6 年生第 2 回総合学力試験(29 日(金)まで)
9 月 2 日	火	1～4 年生前期授業終了
3 日	水	1～4 年生前期授業(予備日)(4 日(木)まで)
10 日	水	1、2、4 年生前期定期試験(19 日(金)まで) 3 年生前期定期試験(18 日(木)まで)
19 日	金	3 年生対象セミナー
22 日	月	1～4 年生後期授業開始
25 日	木	5 年生第 1 回総合学力試験
10 月 15 日	水	振替授業(月曜日分)
27 日	月	6 年生第 3 回総合学力試験(28 日(火)まで)
30 日	木	1～4 年生授業予備日
11 月 1 日	土	} 東歯祭(10 月 31 日(金)は準備日)
2 日	日	
5 日	水	
23 日	日	
		解剖慰霊祭(2 年生)(予定) 学校推薦型選抜、帰国子女・留学生特別選抜 編入学 A、学士等特別選抜 A
12 月 23 日	火	1～4 年生前期追・再試験(12 月 26 日(金)まで)
27 日	土	1～4 年生冬期休暇 開始(1 月 8 日(木)まで)
2026 年 1 月 5 日	月	5 年生第 2 回総合学力試験
6 日	火	6 年生第 4 回総合学力試験(7 日(水)まで)
9 日	金	1～4 年生授業再開
19 日	月	1～4 年生後期授業終了 5 年生共用試験 CPX 学内実施点検
20 日	火	1～4 年生後期授業(予備日)(21 日(水)まで)
24 日	土	4 年生臨床実習前共用試験(OSCE)実施前点検(教職員のみ)
25 日	日	4 年生臨床実習前共用試験(OSCE)
28 日	水	4 年生臨床実習前共用試験(CBT)
2 月 2 日	月	一般選抜(Ⅰ期)大学入学共通テスト利用選抜(Ⅰ期)
4 日	水	1～4 年生後期定期試験(13 日(金)まで)
6 日	金	5 年生共用試験 CSX 実施前点検
7 日	土	5 年生共用試験 CSX
12 日	木	本学創立記念日
17 日	火	4 年生総合学力試験
18 日	水	1 年生総合学力試験
19 日	木	2 年生総合学力試験
20 日	金	3 年生総合学力試験
21 日	土	4 年生臨床実習前共用試験(OSCE)追・再試験
25 日	水	4 年生臨床実習前共用試験(CBT)追・再試験
26 日	木	1～4 年生後期追・再試験(3 月 4 日(水)まで)
3 月 6 日	金	1・2 年生総合学力追・再試験
7 日	土	5 年生共用試験 CSX 追・再試験
8 日	日	一般選抜(Ⅱ期)、大学入学共通テスト利用選抜(Ⅱ期) 編入学 B、学士等特別選抜 B
11 日	水	3・4 年生総合学力追・再試験
12 日	木	第 131 回卒業式(予定)
13 日	金	5 年生総合学力追・再試験

参考：2025 年 7 月 31 日(木)～8 月 11 日(月)(予定) 全日本歯科学生総合体育大会

2024年度 東京歯科大学短期大学 歯科衛生学科・専攻科 学年暦

年月日	曜	行事予定	
2025年4月1日	火	歯科衛生学科新入生オリエンテーション(～7日)	
1日	火	専攻科新入生オリエンテーション	
2日	水	3年生 オリエンテーション(～3日)	
3日	木	3年生 学内模擬試験	
3日	木	専攻科新入生オリエンテーション	
4日	金	入学式	
7日	月	3年生 II期臨床・臨地実習開始	
7日	月	2年生 オリエンテーション	
8日	火	1・2年生 前期授業開始	
10日	木	3年生 前期授業開始	21日(月) 教授会
5月1日	木	} 1・2年生 休講日(4/29～5/6 連休) } 学生健康診断	
2日	金		26日(月) 教授会
6月		和洋国府台女子中学校高等学校 実習	16日(月) 教授会
7月19日	土	1・2年生 夏季休暇(～8/31(木))	
30日	水	3年生 集合日 学内模擬試験	22日(火) 教授会
8月1日	金	3年生 夏季休暇(～8/31(日))	25日(月) 教授会
9月1日	月	1～3年生 前期授業再開、3年生 II期臨床・臨地実習再開	
4日	木	3年生 前期授業終了	
9日	火	1・2年生 前期授業終了	9日(火) 教授会(臨時)(前期定期試験受験資格判定)
10日	水	1年生 前期授業予備日	
10日	水	2年生 実習試験日	
10日	水	3年生 II期臨床・臨地実習終了	
11日	木	1・2年生 前期定期試験期間開始	
11日	木	3年生 前期定期試験	
12日	金	3年生 II期臨床・臨地実習補充者発表	
16日	火	3年生 II期臨床・臨地実習補充期間(～9/19(金))	16日(火) 教授会
19日	金	2年生 前期定期試験終了	
22日	月	2年生 臨床・臨地実習オリエンテーション(～9/30(火))	
22日	月	3年生 III期臨床・臨地実習オリエンテーション(～9/30日(火))	
26日	金	1年生 前期定期試験終了	
29日	月	1年生 後期授業開始	
10月1日	水	2・3年生 後期授業開始、2年生 臨床・臨地実習開始式	
2日	木	3年生 卒業研究発表会(2年生出席)	
6日	月	3年生 III期臨床・臨地実習開始	
11日	土	総合型選抜(I期)(予定)	21日(火) 教授会
11月4日	火	3年生 III期臨床・臨地実習終了	4日(火) 教授会(臨時)(総合型選抜(I期)合格判定)
8日	土	学校推薦型選抜、学士選抜(予定)	
15日	土	修学指導に関する保護者説明会	
22日	土	専攻科入学試験(I期)(予定)	25日(火) 教授会(臨時)(専攻科入学試験(I期)合格判定)
12月1日	月	1・2年生 前期追・再試験(～12/24)	1日(月) 教授会(臨時)(学校推薦型選抜、学士選抜合格判定第1回卒業試験受験資格判定)(予定)
6日	土	総合型選抜(II期)(予定)	8日(月) 教授会(臨時)(総合型選抜(II期)合格判定)
14日	日	専攻科：学位授与機構 小論文試験	22日(月) 教授会
20日	土	2年生 冬季休暇(～1/5)	
25日	木	1年生 冬季休暇(～1/7)	
2026年1月6日	火	2年生 I期臨床・臨地実習再開	
7日	水	2年生 I期臨床・臨地実習日	
8日	木	1・2年生 後期授業再開	
13日	火	2年生 臨時休講	14日(水) 教授会(第2回卒業試験受験資格判定含む)
24日	土	専攻科入学試験(II期)(予定)	
26日	月	1年生 後期授業終了	26日(月) 教授会(臨時)(専攻科入学試験(II期)合格判定)
27日	火	1年生 実習試験期間、予備日(～30日(金))	
2月1日	日	一般選抜(予定)	
2日	月	歯学部一般選抜のため全学休講	
3日	火	1年生 予備日	3日(火) 教授会
4日	水	1年生 後期定期試験(～18日(水))	(一般選抜合格判定、後期定期試験受験資格判定、第3回卒業試験受験資格判定、専攻科修了判定を含む)
5日	木	2年生 後期定期試験	
12日	木	東京歯科大学創立記念日	
13日	金	3年生 学生集合日(卒業判定結果発表)	10日(火) 教授会(卒業判定含む)
19日	木	2年生 I期臨床・臨地実習日	
26日	木	2年生 I期臨床・臨地実習日	
27日	金	2年生 I期臨床・臨地実習終了	
27日	金	1年生 学生集合日(後期定期試験結果発表)	
28日	土	総合型選抜(III期)(予定)	
3月1日	日	第35回歯科衛生士国家試験(予定)	
2日	月	2年生 学生集合日(後期定期試験結果発表)	
2日	月	1年生 後期追・再試験(～9日(月))	2日(月) 教授会(臨時)(総合型選抜(III期)合格判定)
3日	火	2年生 後期追・再試験、I期臨床・臨地実習補充期間(～9日(月))	
13日	金	短期大学7期生卒業式・専攻科第6期生修了式(予定)	17日(火) 教授会(進級判定)
18日	水	1・2年生 学生集合日(進級判定結果発表)(予定)	
19日～24日		新3年生 II期臨床・臨地実習オリエンテーション	
		第35回歯科衛生士国家試験合格発表(予定)	
25日	水	春季休暇(～3/31)	27日(金) 教授会

リレー連載

あのころ私も若かった！

私は、東京都品川区の武蔵小山商店街アーケードと戸越銀座商店街の間あたりにある家の長男として生まれました。母の実家は西小山を流れる立会川沿いにあり、祖母の伴奏（琴！）で歌うのが好きでした（写真1のA）。

（微かな記憶の中で）よく歌っていたのは宮路オサムで、筆者の滑舌が悪いのは、鼻咽腔の成長期に変な声まねをしていたからでしょうか？ 筆者が歌いだすと弟が喚く様に乱入してきました（写真1のB）。

小学生になると、マクドナルド武蔵小山店のクジ引きで1等を当て（写真2）、さらに戸越銀座通り商店街のクジでは「大相撲」の観覧チケットを当てて、魁傑（当時大関）の応援に行きました（なんと2回も！）。大きな運は小学生のころ使ってしまったようです。

中高一貫のS学園に入学すると、軟式野球部で少し緩めの部活動を楽しみました。大学時代はアクアラング部で、いろ

私はどこでしよう？



今号の「私」は
阿部 伸一 教務部長

東京都品川区出身

平成元年 東京歯科大学卒
アクアラング部

いろな島で潜ったのがいい思い出です。

大学卒業後は解剖学講座に入れていただき、恩師・先輩方から「ヒトを構成する骨や筋肉の形には機能するための意味がある」ことを学びました。観察する目は養ってきたはずですが、「アッパースイングだった筆者（高校3年当時）と大谷翔平選手のスイング形態の違い→発揮する機能の差」を説明することができません（写真3）。よって先週末もバッティングセンターで闇雲にバットを振り回し（自分では大谷選手のスイングをマネしているつもり）、ホームラン券<1回無料となります>をゲットできませんでした。次の週末のために（ホームラン券ゲットのために）、毎日素振りを続ける今日この頃です。

武蔵小山商店街と戸越銀座商店街が育んだ強運の男

世界の伸ちゃん 成長の記録



写真1 祖母の伴奏に合わせて歌う筆者(A)と弟(B)。弟は杏林大学で肝胆膵の教授になりました。



写真2 くじ引きでゲットしたママチャリ。店頭で2か月くらいこの写真が掲示されていました。



写真3 高校3年次（部活動引退後）のバッティングフォーム。今日も明日も明後日もこのフォームで振りまくりです。

これさえ解ければ 2025 年はもう安心！

試験解剖学 によく出る

阿部伸一(左)と大リーガー大谷翔平選手の差について正しいのはどれか。すべて選べ。

- a : 才能
- b : 努力
- c : ボールインパクトのタイミング
- d : ボールインパクトの角度
- e : 比較？おこがましい
- f : 不適當問題

正解はお会いたした時にお伝えします！
お気軽にお声がけください〜





広報・公開講座部長：橋本 貞充

編集委員：阿部 潤也

上田 貴之

岡田 舞

世木田 晋

国分 栄仁

高橋 恭子

瀧口 葵

田島 大地

多田 美穂子

橋本 尚呂子

前田 孝人

松浦 由美子

宮川 裕暉

渡辺 賢

編集後記

皆さんの「回想と抱負」2024-2025から……。

歯科医師としての将来を不安に思いながら、友人と気づいたことを話しあった休憩時間。自分のキャパシティを超えてしまうことが多々あり、力不足を心から痛感させられる。Elective Study Programでの初めての海外で、自分の将来の視野が大きく広がる。理想の歯科医師にさらに近づくための礎となる1年。医療人としての使命やあるべき姿を深く認識する。学生同士で共に教え合い学び合いながら、机上での学びの先にある患者さんの存在を常に念頭に置き、勉学に励んでいく。

いつのまにか、なんだか偉くなったような、できるようになった気になっている自分がいた。だからこそ、新しい知見や技術を周囲から謙虚に学ぶ姿勢を心掛ける、学びなおしと再出発の年にする。予想の斜め上をいく出来事が目白押しの、濃密な1年に翻弄される。仲間同士、手を取り合って、工夫に工夫を重ねて、雌伏の2025年を将来の飛躍の礎にする覚悟。たくさんの温かさに支えられた。かつて、非常に苦しい時期もあったけれど、持ち前のチームワークを活かしながら、職員一丸となって力を合わせて奮闘してきた経験がある。あたたかいホスピタリティと質の高い医療を患者さんに届けられるよう、頑張っていく。

仕事と家事のダブルヘッダーの日常から、自分の時間を最大限に活用できるようにする1年。人を笑顔にするために何ができるのか。少しでも多くの学生の笑顔に繋がる仕事をしたい。まずは健康第一に、笑顔で過ごすことを心掛ける。



歯科医師国家試験当日の朝、試験会場に向かう6年生の背中を、長い時間を共にしてきた主任・副主任が、1人ひとり強い思いで押していく。培ってきた東京歯科大学の伝統の重み。